

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.		業務区分		業務名		作成日	
S1		軽自動車税		車両異動入力		2019/9/5	
Phase1：業務時間調査結果							
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数 (すべて正職員)	年間業務時間		
射水市	92,867	月2回	15,600	3	1095.20H		
魚津市	41,944	月2回	14,400	2	1152.00H		
滑川市	33,236	月2回	7,680	3	288.80H		
黒部市	41,260	月2回	6,000	2	625.20H		
立山町	25,987	月1回	3,600	4	248.00H		
入善町	24,793	月1回	3,000	4	177.00H		
舟橋村	3,107	月1回	360	3	20.60 H		

Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）							
	<p>【概要】 本事務は入力系事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は入力件数に比例するものと見込む。⁽¹⁾</p> <p>左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（１）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通りである。</p> <table><tr><td>①ほぼ想定線上</td><td>立山町、入善町、舟橋村</td></tr><tr><td>②想定線上よりも業務時間小</td><td>滑川市</td></tr><tr><td>③想定線上よりも業務時間大</td><td>黒部市、魚津市</td></tr></table>	①ほぼ想定線上	立山町、入善町、舟橋村	②想定線上よりも業務時間小	滑川市	③想定線上よりも業務時間大	黒部市、魚津市
①ほぼ想定線上	立山町、入善町、舟橋村						
②想定線上よりも業務時間小	滑川市						
③想定線上よりも業務時間大	黒部市、魚津市						

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 (独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因)
射水市	
魚津市	●人口に対し、件数が過大と想定する ●県外車両の入力について言及有（他団体では言及なし）
滑川市	●システム入力に係る時間が2分／件（他団体は3分／件） ●システム入力後の確認に係る時間が他団体と比べ明らかに過少（確認内容を詳細に要調査）
黒部市	●J-LISサイトからの登録情報CSVダウンロード未実施 ●異動入力時、同サイトの画面上で照会・確認 ●システム異動入力内容確認時、同サイトで再度照会
立山町	
入善町	●紙申告書とJ-LIS登録情報CSVの照合・軽減率等補記未実施
舟橋村	●入力後の確認は未実施

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）

◎システムへの異動情報入力をRPAで行うためには、軽自動車税申告書記載内容の電子データ化が必須である。

軽自動車税申告書はOCR様式ではあるが、手書き率も高く、AI-OCRをもってしても、100%の精読率は不可能であり、職員によるスキャン作業や読取データの確認・修正が必須となるため、逆効果と見込む。

◎J-LISサイトよりダウンロード可能な登録情報CSVを以って、システムへの異動情報入力が可能か検討を行う。（黒部市も含め）

【重要検討事項】

①登録情報CSVに記載のない事項

・納税義務者の特定

・軽減率等の適用

②システム入力時に考慮すべき事項

・システム上での納税義務者、所有者、使用者の入力・確定方法（CSVとの名称・住所アンマッチや複数宛名がある場合の対処法）

・所有者・使用者移転を伴う名義変更時の特定方法

◎J-LISサイトからの登録情報CSVダウンロード作業については各団体のネットワーク状況に応じRPAによる代替も検討する。

◎RPAによるシステム入力が可能である場合は、確認フェーズにおいても業務時間縮小できる方法を見出す。

総合的判断

業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.		業務区分		業務名		作成日	
S2-1		税収納		日次消込（納付書）		2019/9/5	
Phase1：調査結果							
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数 （すべて正職員）	年間業務時間		
射水市	92,867	毎日1回	-	1	238.95H		
滑川市	33,236	毎日1回	-	1	117.45H		
黒部市	41,260	毎日1回	-	1	52.65H		
上市町	20,611	毎日1回	-	1	315.90H		
立山町	25,987	毎日1回	-	1	368.55H		
入善町	24,793	毎日1回	-	1	538.65H		
舟橋村	3,107	毎週1回	-	1	67.50 H		

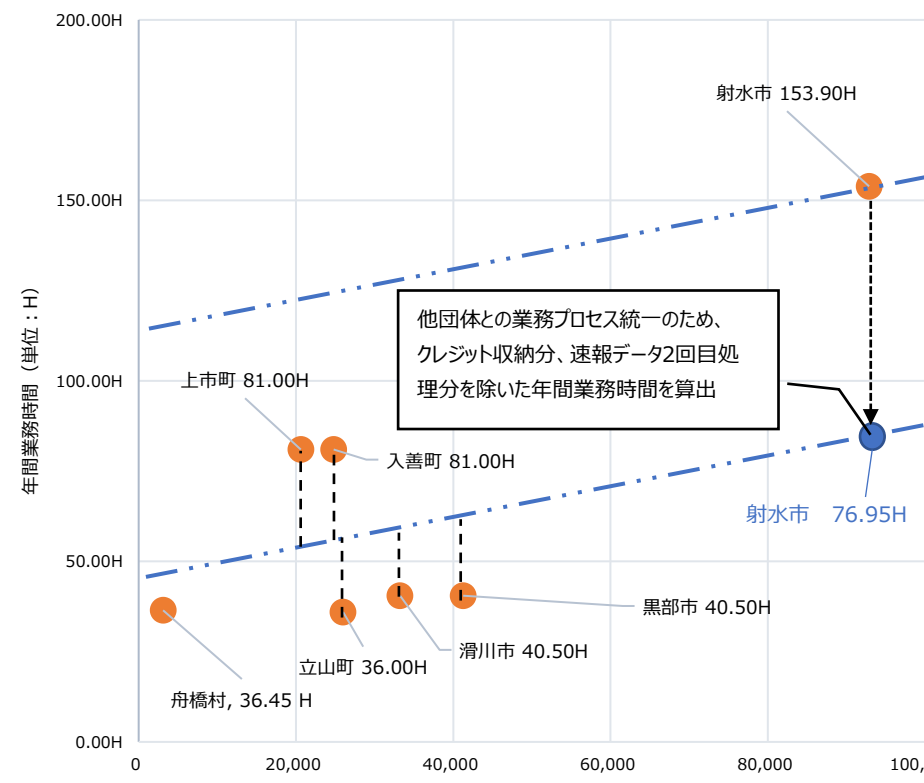
Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）							
	<p>【概要】 本事務はシステムによるバッチ処理の実行及び処理結果確認が主な事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は人口や件数等に関わらず、ほぼフラットな状態になるものと見込む。但し、若干処理件数等により、バッチ処理時間の大小が見込まれる。 (1)</p> <p>左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（１）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通り。</p> <table><tr><td>①ほぼ想定線上</td><td>なし</td></tr><tr><td>②想定線上よりも業務時間小</td><td>滑川市、黒部市、舟橋村</td></tr><tr><td>③想定線上よりも業務時間大</td><td>立山町、入善町、上市町</td></tr></table>	①ほぼ想定線上	なし	②想定線上よりも業務時間小	滑川市、黒部市、舟橋村	③想定線上よりも業務時間大	立山町、入善町、上市町
①ほぼ想定線上	なし						
②想定線上よりも業務時間小	滑川市、黒部市、舟橋村						
③想定線上よりも業務時間大	立山町、入善町、上市町						

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 （独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因）
射水市	●システムバッチ処理において、法人住民税分の処理も実施している（射水市のみ） ●消込に必要な納付データは金融機関より電子データで受け取っており、自庁内でOCR読取は実施していない。
滑川市	●会計課にてOCR読取およびアップロードを実施。 当該業務調査担当課（税務課）の事務範疇外であるため、これに係る業務時間は含んでいない。
黒部市	●システムバッチ処理の一部を既にRPAで自動実行している。
上市町	●当該業務調査担当課（財務課）にて納付書のOCR読取を実施 ●バッチ処理間において、出力される帳票の確認を都度実施
立山町	●当該業務調査担当課（会計課）にて納付書のOCR読取を実施 ●バッチ処理間において、出力される帳票の確認を都度実施
入善町	●当該業務調査担当課（税務課）にて納付書のOCR読取を実施 ●法人、特徴分の消込は当該業務調査担当課（税務課）が手入力で実施しており、この分が過大に算出
舟橋村	●業務サイクルが他団体と違う（週1回）ため年間業務時間が過少に算出される。

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
◎システムのバッチ処理実行に係る作業が主であり、既に黒部市で一部RPAによる代替を行っていることから、適合性は充分であるが、システム仕様に起因する部分もあり、全国展開を視野に入れた場合は評価が落ちる。			
◎射水市、黒部市以外では、納付書のOCR読取を行っている団体が主流であり、この部分の負荷がかなり大きい。 但し、現状OCR読取の負荷軽減を考える場合、金融機関から電子データで回送してもらう他なく、費用対効果との相談となる。 ※入善町の手入力分についても同等である。			
◎各団体間において、バッチ処理の実行順番および、バッチ処理間の帳票確認等の運用に相違がある。 システム担当SEを交えて、RPAによる連続実行に資する、処理順番および確認方法の業務プロセスを検討する必要がある。			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.		業務区分		業務名		作成日	
S2-2		税収納		日次消込（コンビニ収納）		2019/9/5	
Phase1：調査結果							
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数 （すべて正職員）	年間業務時間		
射水市	92,867	毎日1回	-	1	153.90H		
滑川市	33,236	毎日1回	-	1	40.50H		
黒部市	41,260	毎日1回	-	1	40.50H		
上市町	20,611	毎日1回	-	1	81.00H		
立山町	25,987	毎月6回	-	1	36.00H		
入善町	24,793	毎日1回	-	1	81.00H		
舟橋村	3,107	毎日1回	-	1	36.45 H		

Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）							
	<p>【概要】</p> <p>本事務はシステムによるバッチ処理の実行及び処理結果確認が主な事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は人口や件数等に関わらず、ほぼフラットな状態になるものと見込む。但し、若干処理件数等により、バッチ処理時間の大小が見込まれる。</p> <p>（1）</p> <p>左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（1）の想定を示す。</p> <p>左図から読み取れる想定との乖離は以下の通り</p> <table><tr><td>①ほぼ想定線上</td><td>舟橋村</td></tr><tr><td>②想定線上よりも業務時間小</td><td>黒部市、滑川市、立山町</td></tr><tr><td>③想定線上よりも業務時間大</td><td>上市町、入善町</td></tr></table>	①ほぼ想定線上	舟橋村	②想定線上よりも業務時間小	黒部市、滑川市、立山町	③想定線上よりも業務時間大	上市町、入善町
①ほぼ想定線上	舟橋村						
②想定線上よりも業務時間小	黒部市、滑川市、立山町						
③想定線上よりも業務時間大	上市町、入善町						

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 (独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過小となる原因)
射水市	●クレジット収納分の消込を実施（射水市のみ） ●速報データが2データ受信しており、それぞれシステムへ取り込みを実施（射水市のみ） ●収納データのDLを行う端末と、システム利用端末がネットワーク上、物理的に遮断されており、媒体を介しての移送が発生
滑川市	
黒部市	
上市町	●他団体では実施していないバッチ処理を実行している ●バッチ処理間において、出力される帳票の確認を都度実施 ●収納データのDLを行う端末と、システム利用端末がネットワーク上、物理的に遮断されており、媒体を介しての移送が発生
立山町	
入善町	●一部事務において業務時間が過大に積算されている可能性有 ●収納データのDLを行う端末と、システム利用端末がネットワーク上、物理的に遮断されており、媒体を介しての移送が発生
舟橋村	

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
◎システムのバッチ処理実行に係る作業が主であり、適合性は充分であるが、システム仕様に起因する部分もあり、全国展開を視野に入れた場合は評価が落ちる。業務時間も多くはなく、S2-1、S2-3と包括して実施することを前提とする。			
◎射水市のみ実施している作業（クレジット収納、速報データの2回取込）があり、他団体との整合性を確保するため、この作業を除外して検討する必要がある。			
◎各団体間において、バッチ処理の実行順番および、バッチ処理間の帳票確認等の運用に相違がある。システム担当SEを交えて、RPAによる連続実行に資する、処理順番および確認方法の業務プロセスを検討する必要がある。			
◎ネットワーク強化の影響により、収納データをダウンロードできる端末（LGWAN系）とシステム利用端末（個人番号利用事務系）が物理的に遮断されていることにより、媒体を介した移送を余儀なくされる団体がある。RPAによる自動化の範囲として、収納データのダウンロードまで含めるかどうかは、各団体の端末環境を一致させられるかに依る。			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.		業務区分		業務名		作成日	
S2-3		後期高齢者医療保険料		日次消込（納付書）		2019/9/5	
Phase1：調査結果							
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数 （すべて正職員）	年間業務時間		
射水市	92,867	毎日1回	-	1	149.90H		
滑川市	33,236	毎日1回	-	1	30.35H		
黒部市	41,260	毎日1回	-	1	52.65H		
上市町	20,611	毎日1回	-	1	93.15H		
立山町	25,987	毎日1回	-	1	190.35H		
入善町	24,793	毎日1回	-	1	73.70H		
舟橋村	3,107	毎週1回	-	1	18.33 H		

Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）	
	<p>【概要】</p> <p>本事務はシステムによるバッチ処理の実行及び処理結果確認が主な事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は人口や件数等に関わらず、ほぼフラットな状態になるものと見込む。但し、若干処理件数等により、バッチ処理時間の大小が見込まれる。</p> <p>（1）</p> <p>左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（1）の想定を示す。</p> <p>左図から読み取れる想定との乖離は以下の通り。</p>
①ほぼ想定線上	該当なし
②想定線上よりも業務時間小	黒部市、滑川市、上市町、入善町、舟橋村
③想定線上よりも業務時間大	立山町

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 （独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因）
射水市	●広域連合会への連携処理を毎日実施（射水市のみ） ●消込に必要な納付データは金融機関より電子データで受け取っており、自庁内でOCR読取は実施していない。
滑川市	●広域連合会への連携処理は月次で実施（射水市に比べ過少） ●会計課にてOCR読取およびアップロードを実施。 当該業務調査担当課（税務課）の事務範囲外であるため、これに係る業務時間は含んでいない。
黒部市	●広域連合会への連携処理について調査票に記載なし
上市町	●当該業務調査担当課（財務課）にて納付書のOCR読取を実施 ●広域連合会への連携処理について調査票に記載なし
立山町	●当該業務調査担当課（会計課）にて納付書のOCR読取を実施 ●バッチ処理間において、出力される帳票の確認を都度実施 ●広域連合会への連携処理について調査票に記載なし
入善町	●当該業務調査担当課（税務課）にて納付書のOCR読取を実施 ●広域連合会への連携処理は月次で実施（射水市に比べ過少）
舟橋村	●業務サイクルが他団体と違う（週1回）ため年間業務時間が過少に算出される。

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
◎システムのバッチ処理実行に係る作業が主であり、適合性は充分であるが、システム仕様に起因する部分もあり、全国展開を視野に入れた場合は評価が落ちる。業務時間も多くはなく、S2-1、S2-3と包括して実施することを前提とする。			
◎各団体間において、調査した業務フローの過不足、バッチ処理の実行サイクル、バッチ処理間の帳票確認等の運用に相違がある。システム担当SEを交えて、RPAによる連続実行に資する、処理順番および確認方法の業務プロセスを検討する必要がある。			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.	業務区分	業務名				作成日
S3	税収納	消込結果集計				2019/9/5
Phase1：調査結果						<div>Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）</div> <div><div><div><div>200.00H</div><div>150.00H</div><div>100.00H</div><div>50.00H</div><div>0.00H</div></div><div><div>0</div><div>20,000</div><div>40,000</div><div>60,000</div><div>80,000</div><div>100,000</div></div><div>立山町 164.90H</div><div>滑川市 121.50H</div><div>射水市 6.00H</div><div>入善町 0.00H</div><div>上市町 6.00H</div><div>年間業務時間（単位：H）</div><div>人口（単位：人）</div></div><div>【概要】 本事務は職員の手作業ならびに人口や件数等に関わらない集計事務である。そのため、全団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、確実にフラットな状態になるものと見込む。⁽¹⁾ 左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（１）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通りである。</div><div><div>①ほぼ想定線上</div><div>②想定線上よりも業務時間小</div><div>③想定線上よりも業務時間大</div><div>上市町</div><div>該当なし</div><div>滑川市、立山町</div></div></div>
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数 （すべて正職員）	年間業務時間	
射水市	92,867	月2回	-	1	6.00H	
滑川市	33,236	毎日1回	-	1	121.50H	
上市町	20,611	月2回	-	1	6.00H	
立山町	25,987	毎日1回+毎月1回	-	1	164.90H	
入善町	24,793	業務実施なし	-	-	-	

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 （独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因）
射水市	
滑川市	●集計EXCELをシステムのEUC機能で発行されるCSVより、手入力で実施している。
上市町	
立山町	●当該調査対象事務とは、かなり違う観点からの調査内容となっており、比較対象とできない。
入善町	●当該事務自体を実施していない

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
◎射水市、上市町のように既に自団体でEXCELマクロを作成して運用している団体もあることから、本事務のRPA適合性は低い			
◎入善町のように本事務自体を実施していない団体もあることから、全国展開度としても低い			
◎集計業務以降に、収入金額を確定するため、様々な事務を実施している（本調査では未調査）が、様々でシステム・データ間を跨ぐこと、および、そこで実施する判断がRPAやマクロ等で行える範囲を超えていることを考慮すると、RPAの適合性は限りなく低いと言わざるを得ない。			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.		業務区分		業務名		作成日							
S4		法人住民税		申告書入力		2019/9/5							
Phase1：調査結果						Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）							
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数 （すべて正職員）	年間業務時間	<div></div> <div>【概要】 本事務は入力系事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は入力件数に比例するものと見込む。⁽¹⁾ 左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（１）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通りである。</div> <table><tr><td>①ほぼ想定線上</td><td>立山町</td></tr><tr><td>②想定線上よりも業務時間小</td><td>該当なし</td></tr><tr><td>③想定線上よりも業務時間大</td><td>黒部市、滑川市、入善町</td></tr></table>		①ほぼ想定線上	立山町	②想定線上よりも業務時間小	該当なし	③想定線上よりも業務時間大	黒部市、滑川市、入善町
①ほぼ想定線上	立山町												
②想定線上よりも業務時間小	該当なし												
③想定線上よりも業務時間大	黒部市、滑川市、入善町												
射水市	92,867	毎月1回	3,120	1	282.80H								
滑川市	33,236	毎月1回	732	1	156.20H								
黒部市	41,260	毎月1回	1,464	1	231.60H								
立山町	25,987	毎月1回	816	1	93.80H								
入善町	24,793	毎月1回	696	1	216.28H								

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 （独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因）
射水市	
滑川市	●件数が黒部市よりも少なく、記載された調査結果に疑義がある。（件数が増える場合は、想定線に近づく）
黒部市	●eLTAX申告分をシステムへバッチ処理で取り込むのではなく、印刷して紙申告と同様に手入力している。
立山町	
入善町	●eLTAX申告分をシステムへバッチ処理で取り込むのではなく、印刷して紙申告と同様に手入力している。 ●みなし申告のシステムへの手入力に係るプロセスも記載あり ●調定連携処理後の起案・還付等に係る事務についても記載あり

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
◎全てが電子申告になれば、RPAの出番はシステム上のバッチ処理実行等のみとなる。（システムに取り込み口有） しかし、各法人に電子申告を強制できるものではないため、紙申告書が残ることが避けられない。			
◎紙申告書の様式は、どの団体においても国が定める様式にほぼ準じているため、AI-OCRの検証を含めて選抜することは可能。 但し、各団体の職員がAI-OCRの利用する場合、スキャン～読取～確認～修正～確定の事務が新規に発生し、事務効率的に改善が見込めるものではない。 そのため、職員はスキャンのみを実施し、AI-OCRに係る各種作業は協力民間事業者にアウトソーシングする運用を検証したい。			
◎AI-OCRの検証時に民間事業者が実施すること ・AI-OCRの読取設定および試行（読取・精読率の検証） ・ペリファイ入力による、読取データの確認～修正～確定 ・上記を以って、アウトソーシングに係る費用の積算（費用対効果の検証用）			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

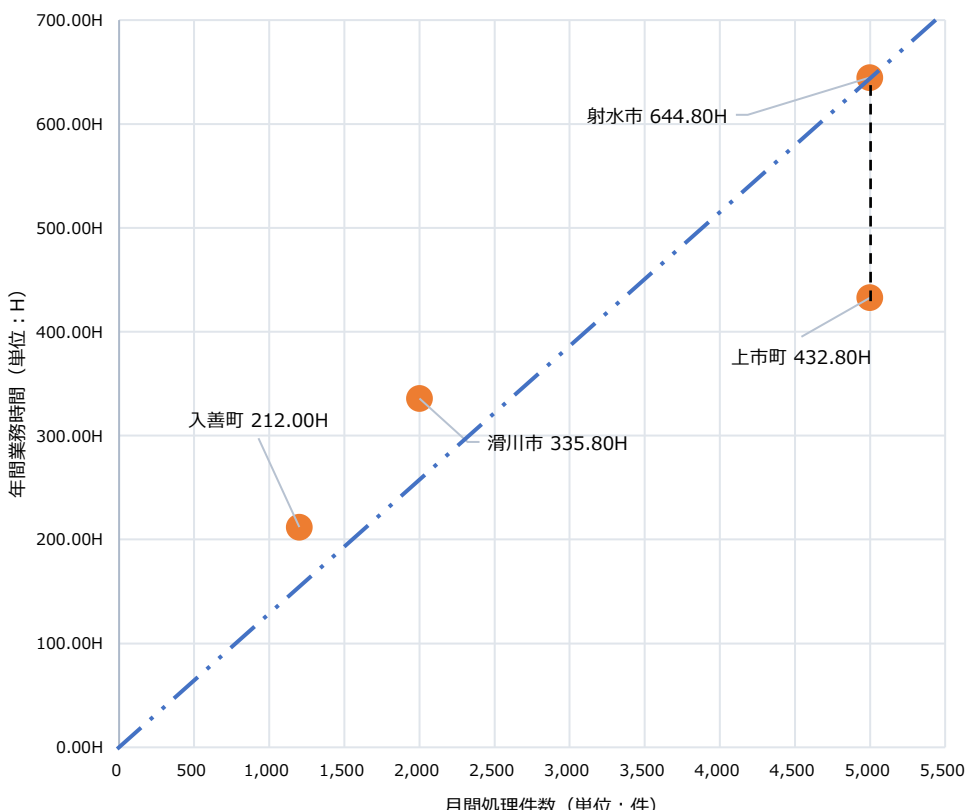
管理No.	業務区分	業務名				作成日
S5	国民健康保険税賦課	月次賦課処理				2019/9/5
Phase1：調査結果						Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数 （すべて正職員）	年間業務時間	
射水市	92,867	毎月1回	-	1	84.00H	
滑川市	33,236	毎月1回	-	1	84.00H	
上市町	20,611	毎月1回	-	1	84.00H	
朝日町	11,981	毎月1回	-	1	74.00H	

		<p>【概要】 本事務はシステムによるバッチ処理の実行及び処理結果確認が主な事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は人口や件数等に関わらず、ほぼフラットな状態になるものと見込む。但し、若干処理件数等により、バッチ処理時間の大小が見込まれる。 （1）</p> <p>左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（1）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通り</p> <table><tr><td>①ほぼ想定線上</td><td>滑川市、上市町</td></tr><tr><td>②想定線上よりも業務時間小</td><td>朝日町</td></tr><tr><td>③想定線上よりも業務時間大</td><td>該当なし</td></tr></table>	①ほぼ想定線上	滑川市、上市町	②想定線上よりも業務時間小	朝日町	③想定線上よりも業務時間大	該当なし
①ほぼ想定線上	滑川市、上市町							
②想定線上よりも業務時間小	朝日町							
③想定線上よりも業務時間大	該当なし							

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 (独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因)
射水市	特筆事項無
滑川市	特筆事項無
上市町	特筆事項無
朝日町	●月次帳票作成・調定連携関係の事務において、他団体よりも業務時間が短い 一部不要な作業があるのか、調査票に記入した職員の感覚的なものか・・・

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
◎事務のほとんどが、システムによりバッチ処理の実行・確認であるが、処理間に職員自ら確認を行うべき事項も多々あり、この部分はRPAやマクロ等で行える範囲を超えている。 このため、一連の流れを連続してRPAで実行させることが難しく、効果を最大限に発揮できない。			
◎システムSEを交えて協議し、効率的な方法へ運用変更できる場合を除くが、現手順はシステムSEが最も効率的と判断して作成した手順書に則って実施しているものであり、改善の見込みは薄い。			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.		業務区分		業務名		作成日	
S6		固定資産税		土地異動入力		2019/9/5	
Phase1：調査結果						Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）	
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数	年間業務時間	<div></div> <div>【概要】 本事務は入力系事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は入力件数に比例するものと見込む。⁽¹⁾ 左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（１）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通りである。</div>	
射水市	92,867	毎週1回	5,000	正職員：3	644.80H		
滑川市	33,236	毎週1回	2,000	正職員：1 パート・アルバイト：1	335.80H		
上市町	20,611	毎週1回	5,000	正職員：2	432.80H		
入善町	24,793	毎月1回	1,200	正職員：3	212.00H		
						①ほぼ想定線上 滑川市、入善町	
						②想定線上よりも業務時間小 上市町	
						③想定線上よりも業務時間大 該当なし	

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、 各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 (独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因)
射水市	
滑川市	<ul style="list-style-type: none"> ●他団体に比べシステム入力・チェックに係る時間が大きい（平均値＋1～2分／件） ●入力チェックは3ヶ月に1回纏めて実施してる。
上市町	<ul style="list-style-type: none"> ●他団体に比べシステム入力・チェックに係る時間が小さい（平均値-3分／件）
入善町	

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
<p>◎現状は登記異動通知書を紙媒体で法務局より受け取るが、令和2年1月より電子データでの提供も可能となる。 但し、射水市においては、当該データをシステムに連携する別ツールを導入することが決定しており、この時点で他団体との運用の違いが明確に表れることになるため、共同利用の観点から適合性に乏しい。</p> <p>◎電子データで受領しない場合は、紙の登記通知書をAI-OCRで電子データ化する以外にRPAの利用用途はない。 登記通知書はほとんどが活字であり、AI-OCRでの電子化も一定以上の精読率が見込めるため、検証に資する可能性は高い。</p> <p>◎登記異動は、所有権移転・分筆・合筆等多岐に渡る上、 個人で複数の登記を持つ場合、異動対象となる登記と、異動先を特定することがRPAでは非常に難しい。</p>			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.	業務区分	業務名				作成日	
S7	健康管理	予防接種結果登録				2019/9/5	
Phase1：調査結果						Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）	
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数	年間業務時間		
射水市	92,867	毎月1回	14,400	臨時職員：4	846.00H		
魚津市	41,944	毎月1回	16,200	正職員：1 臨時職員：1	943.00H		
黒部市	41,260	毎月1回	13,200	正職員：1 臨時職員：1	1027.00H		
朝日町	11,981	毎月1回	6,450	正職員：1 臨時職員：1	343.00H		
						<p>【概要】</p> <p>本事務は入力系事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は入力件数に比例するものと見込む。⁽¹⁾</p> <p>左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（１）の想定を示す。</p> <p>左図から読み取れる想定との乖離は以下の通りである。</p>	
						①ほぼ想定線上	朝日町
						②想定線上よりも業務時間小	魚津市
						③想定線上よりも業務時間大	黒部市

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）		
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、 各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。		
団体名	特異点・相違点 (独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因)	
射水市	●高齢者インフルエンザ分含まず	●●各団体間の業務プロセスは同じだが 各プロセスに係る時間に大きな相違がある。 (同じシステムだが・・・) 入力方法、チェック方法等に差異がある可能性
魚津市	●高齢者インフルエンザ分含む（想定）	
黒部市	●高齢者インフルエンザ分含む（射水市同等に乳幼児のみでもかなり過大）	
朝日町	●高齢者インフルエンザ分含む	

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
◎ 高齢者インフルエンザ予防接種の接種実績入力は、射水市が実施しているように、予診票の電子データ化（データエントリー）ができればシステムのバッチ処理にて取り込むことが可能であるため、RPAでの自動入力の出番はない。			
◎ 乳幼児予防接種の接種実績入力および入力内容確認に絞って比較した場合、件数を考慮しても、各団体・プロセスにおける業務時間の大きな相違が認められる。（職員のスキル・作業内容の相違が原因と見込む）標準的な業務プロセスの構築・RPAによる自動入力仕様に向けた検討が必要である。			
◎ システム入力の基となる、医療機関から回送される予診票は紙ベースであり、且つワクチン名はワクチン自体に貼付されているシールを貼りなおしたもので、医療機関名・医師名はゴム印が押印されている場合が殆どこの状態で、AI-OCRを用いようとする場合、スキャン時にシールが剥がれるもしくはスキャナ内に詰まる恐れがあったり、シールの文字が極小であり、ゴム印は薄い・文字つぶれが確認され、OCRでの読取精度に大きな影響を与えかねない。			
◎ 仮にAI-OCRの利用する場合でも、職員が全ての作業を実施すると、スキャン～読取～確認～修正～確定の事務が新規に発生し、事務効率的に改善が見込めるものではない。 そのため、職員はスキャンのみを実施し、AI-OCRに係る各種作業は協力民間事業者にアウトソーシングする運用を検証したい。			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.	業務区分	業務名				作成日	
S8	医療費助成	現物給付データ受入				2019/9/5	
Phase1：調査結果						Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）	
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数 (すべて正職員)	年間業務時間		
射水市	92,867	毎月1回	16,032	1	38.60H		
滑川市	33,236	毎月1回	6,000	3	60.60H		
黒部市	41,260	毎月1回	1,800	3	88.00H		
立山町	25,987	毎月1回	3,600	1	225.00H		
						【概要】 本事務は入力系事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は入力件数に比例するものと見込む。 ⁽¹⁾ 但し、件数に関係なくシステムでの処理は発生するため、原点には帰らない。 左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（１）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通りである。	
						①ほぼ想定線上	滑川市
						②想定線上よりも業務時間小	該当なし
						③想定線上よりも業務時間大	黒部市、立山町

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 (独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因)
射水市	●システム取込後のエラー・警告チェックに係る対処運用が確立されておらず、これに係る業務時間が調査では少なく算出
滑川市	
黒部市	●他団体に比べ、システム処理に係る時間が多く算出 ●滑川市に比べ、システム取込後のエラー・警告チェックに係る時間が多く算出されている。
立山町	●滑川市に比べ、システム取込後のエラー・警告チェックに係る時間がかなり多く算出されている。

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
◎RPAで自動化可能な部分はシステムでのバッチ処理実行に限られるため、全体における効果は少ない。			
◎システムでの取込処理後に発行される、エラー・警告に対するの対処方法が確立されていないか、各団体により様々で、調査時において、各団体の業務時間に大きな相違が発生している。 エラー・警告の内容も多岐に渡り、場合によっては医療機関への確認や修正入力も発生するため、運用方法が確立しても、この部分をRPAで補うことは不可能に等しい。			
◎富山県においては福祉医療費請求書の紙運用を廃止し、電子化したため、本運用を行っているが、全国的に同様のケースがどれだけ存在するか未知数であり、全国展開の可能性は不明である。			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

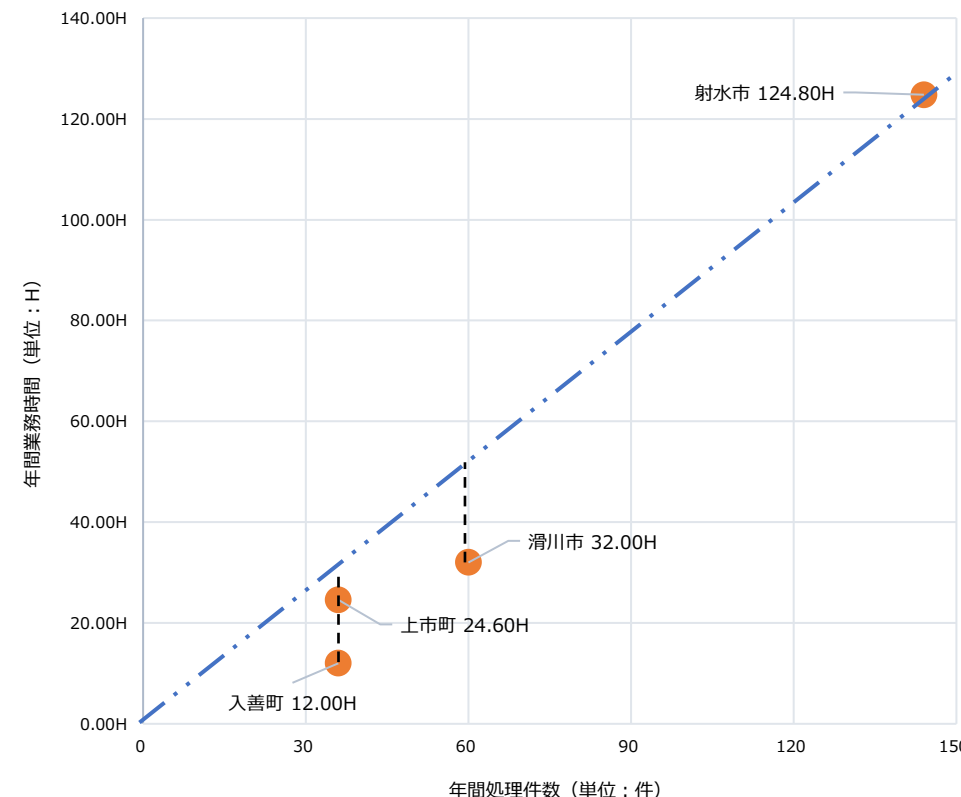
自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.		業務区分		業務名		作成日	
S9		医療費助成		高額療養費請求		2019/9/5	
Phase1：調査結果						Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）	
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数 (すべて正職員)	年間業務時間	【概要】 本事務はシステムによるバッチ処理の実行及び処理結果確認が主な事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は人口や件数等に関わらず、ほぼフラットな状態になるものと見込む。但し、若干処理件数等により、バッチ処理時間の大小が見込まれる。 (1) 左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（1）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通り。	
射水市	92,867	毎月1回	-	1	65.60H	①ほぼ想定線上 該当なし	
黒部市	41,260	毎月1回	-	1	83.60H	②想定線上よりも業務時間小 黒部市	
朝日町	11,981	毎月1回	-	1	45.60H	③想定線上よりも業務時間大 朝日町	

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 (独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因)
射水市	業務プロセスに大きな相違はなし 業務時間の相違は、調査に回答した職員の感覚によるズレであり、実測値ではない
黒部市	
朝日町	

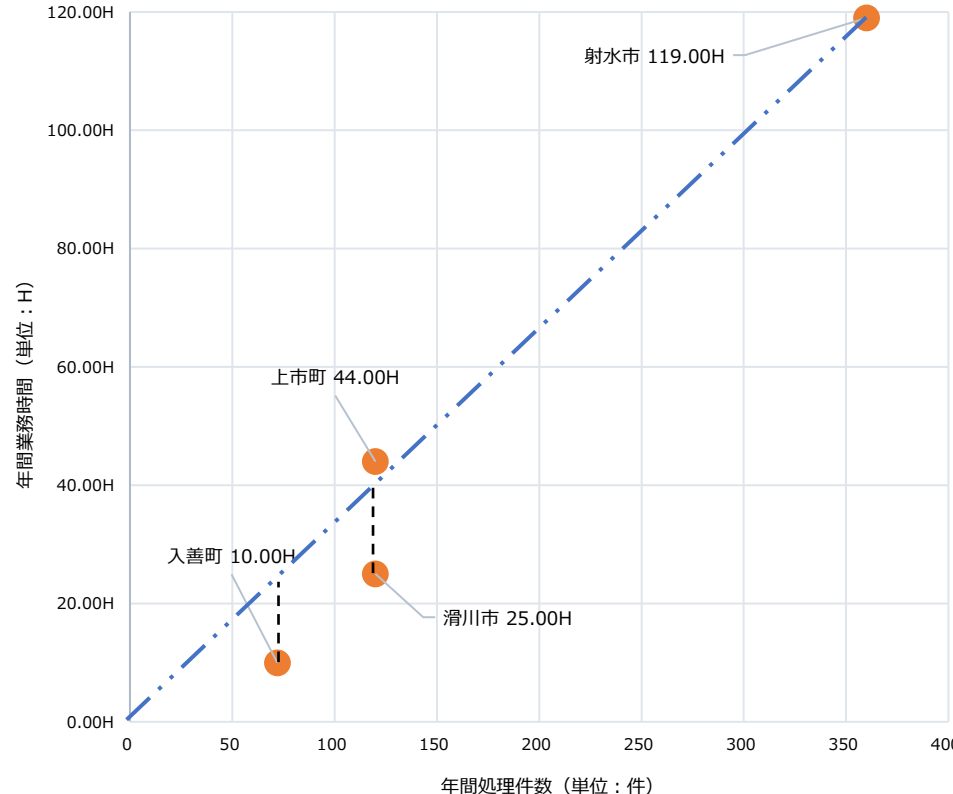
Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
◎RPAで自動化可能な部分はシステムでのバッチ処理実行に限られるが、バッチ処理に係る時間が大きく、効果が高いように見える。 しかし、大きな時間がかかっているのは、高額療養費の該当者における課税区分や支払履歴の確認を行い、対象者として確定してよいか判断する部分であり、多岐に渡る情報からRPAでどれを判断することは不可能に等しく、RPAによる自動化効果の見込みは小さくなる。			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.		業務区分		業務名		作成日	
S10-1		障がい者管理		療育手帳情報システム入力		2019/9/6	
Phase1：調査結果							
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数 (すべて正職員)	年間業務時間		
射水市	92,867	毎月12回	144	1	124.80H		
滑川市	33,236	毎月5回	60	1	32.00H		
上市町	20,611	毎月3回	36	1	24.60H		
入善町	24,793	毎月3回	36	1	12.00H		
Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）							
						【概要】 本事務は入力系事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は入力件数に比例するものと見込む。 ⁽¹⁾ 左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（１）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通りである。	
①ほぼ想定線上						上市町	
②想定線上よりも業務時間小						滑川市、入善町	
③想定線上よりも業務時間大						該当なし	

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）		Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）									
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。		◎ 現行の業務プロセスでは、RPAによる自動化が望めるのはシステム入力部分のみであり、効果は極小かつ、県障害者相談センターより回付される判定結果は紙ベースであり、RPA化のためには、判定結果の電子データ化もしくはAI-OCRを用いた読取が必要となる。 ◎ 障がい者サービスの該当チェックや必要書類の印刷において、パターン表の作成が可能であれば、この部分のRPA化も可能。但し、年齢・等級以外の複雑な考慮を要する場合（パターンが無制限）の場合は難しくなる。 ◎ 県障害者相談センターから通知されるタイミングがまとめて数件ではなく、個々に通知されるため、市町村側も都度受入事務を行っている。県障害者相談センターの判定に係る業務内容にもよるが、個々ではRPA導入による効果は薄く、集合的に実施できる方策がないか県障害者相談センターも交えた検討が必要 ◎ 各団体において、基本的な事務の流れはほぼ同じであるが、団体間において、実施されているプロセス・されていないプロセスがあったり、同じプロセスでも1件当たりの事務時間に相違が見受けられる。RPA導入も踏まえた、最適な業務手法を検討するには、適切な事務と見込む									
団体名	特異点・相違点 (独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過小となる原因)	<div>総合的判断</div> <table><tr><td>業務時間</td><td>A / B / C / D / E</td><td>全国展開度</td><td>A / B / C / D / E</td></tr><tr><td>RPA適合性</td><td>A / B / C / D / E</td><td>最終選定優先度</td><td>A / B / C / D / E</td></tr></table>		業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E	RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E								
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E								
射水市	●一部、団体間で実施されている・されていないプロセスや業務時間の違いはあるが、概ね事務の流れは同じ。 ※業務時間は、担当職員のスキルや、各プロセスの詳細事務の違い、調査時の感覚に依存するものと見込む ※交付対象者が手帳の受け取りに来庁した際の事務手続きに必要な準備の部分での相違はあり										
滑川市											
上市町											
入善町											

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.		業務区分		業務名		作成日							
S10-2		障がい者管理		精神障害者手帳情報システム入力		2019/9/6							
Phase1：調査結果													
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数	年間業務時間								
射水市	92,867	毎月1回	360	正職員：1 臨時職員：1	119.00H								
滑川市	33,236	毎月1回	120	正職員：1 非常勤職員：1	25.00H								
上市町	20,611	毎月1回	120	正職員：1	44.00H								
入善町	24,793	毎月1回	72	正職員：1	10.00H								
Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）						【概要】 本事務は入力系事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は入力件数に比例するものと見込む。 ⁽¹⁾ 左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（1）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通りである。							
						<table><tr><td>①ほぼ想定線上</td><td>上市町</td></tr><tr><td>②想定線上よりも業務時間小</td><td>滑川市、入善町</td></tr><tr><td>③想定線上よりも業務時間大</td><td>該当なし</td></tr></table>		①ほぼ想定線上	上市町	②想定線上よりも業務時間小	滑川市、入善町	③想定線上よりも業務時間大	該当なし
①ほぼ想定線上	上市町												
②想定線上よりも業務時間小	滑川市、入善町												
③想定線上よりも業務時間大	該当なし												

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、 各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 (独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因)
射水市	●一部、団体間で実施されている・されていないプロセスや業務時間の違いはあるが、概ね事務の流れは同じ。 (業務時間は、担当職員のスキルや、各プロセスの詳細事務の違い、調査時の感覚に依存するものと見込む)
滑川市	
上市町	
入善町	

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
◎県心の健康センターより回付される判定結果は既に電子データとなっており、RPAによる入力自体は可能と見込む。 また、月1回纏めて判定結果が送付されるため、集合的事務としてもRPAの適用には適している。 但し、現行の業務プロセスでは、RPAによる自動化が望めるのはシステム入力部分のみであり、効果は極小			
◎障がい者サービスの該当チェックや必要書類の印刷において、パターン表の作成が可能であれば、この部分のRPA化も可能。 但し、年齢・等級以外の複雑な考慮を要する場合（パターンが無制限）の場合は難しくなる。			
◎各団体において、基本的な事務の流れはほぼ同じであるが、 団体間において、実施されているプロセス・されていないプロセスがあったり、同じプロセスでも1件当たりの事務時間に相違が見受けられる。 RPA導入も踏まえた、最適な業務手法を検討するには、適切な事務と見込む			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.	業務区分	業務名				作成日		
S10-3	障がい者管理	身体障害者手帳情報システム入力				2019/9/6		
Phase1：調査結果						Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）		
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数 (すべて正職員)	年間業務時間			
射水市	92,867	毎月3回	288	1	177.60H			
滑川市	33,236	毎月3回	108	1	39.60H			
上市町	20,611	隔週1回(2W)	72	1	45.83H			
入善町	24,793	毎月3回	108	1	18.00H			
						<p>【概要】 本事務は入力系事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は入力件数に比例するものと見込む。⁽¹⁾</p> <p>左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（１）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通りである。</p>		
							①ほぼ想定線上	滑川市、上市町
							②想定線上よりも業務時間小	入善町
							③想定線上よりも業務時間大	該当なし

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、 各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 (独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因)
射水市	●一部、団体間で実施されている・されていないプロセスや業務時間の違いはあるが、概ね事務の流れは同じ。 ※業務時間は、担当職員のスキルや、各プロセスの詳細事務の違い、調査時の感覚に依存するものと見込む ※交付対象者が手帳の受け取りに来庁した際の事務手続きに必要な準備の部分での相違はあり
滑川市	
上市町	
入善町	

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）			
◎月3回纏めて判定結果が送付されるため、集散的事務としてもRPAの適用には適しているが、 現行の業務プロセスでは、RPAによる自動化が望めるのはシステム入力部分のみであり、効果は極小 県障害者相談センターより回付される判定結果は紙ベースであり、RPA化のためには、判定結果の電子データ化もしくはAI-OCRを用いた読取が必要となる。			
◎障がい者サービスの該当チェックや必要書類の印刷において、パターン表の作成が可能であれば、この部分のRPA化も可能。 但し、年齢・等級以外の複雑な考慮を要する場合（パターンが無制限）の場合は難しくなる。			
◎各団体において、基本的な事務の流れはほぼ同じであるが、 団体間において、実施されているプロセス・されていないプロセスがあったり、同じプロセスでも1件当たりの事務時間に相違が見受けられる。 RPA導入も踏まえた、最適な業務手法を検討するには、適切な事務と見込む			
総合的判断			
業務時間	A / B / C / D / E	全国展開度	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E	最終選定優先度	A / B / C / D / E

自治体行政スマートプロジェクト事業 現状業務量調査分析シート

管理No.	業務区分	業務名				作成日
S11	子ども子育て （保育）	保育認定・契約情報変更				2019/9/6
Phase1：調査結果						
団体名	人口	業務サイクル	年間処理件数	従事人数	年間業務時間	
射水市	92,867	臨時&毎月1回	1,200	正職員：1 パート・アルバイト：1	182.60H	
魚津市	41,944	臨時&毎月2回	360	正職員：1	53.20H	
黒部市	41,260	臨時&毎月1回	720	正職員：1	126.60H	
朝日町	11,981	臨時&毎月1回	120	正職員：1	13.60H	

Phase2：業務時間比較（射水市業務フローをベースとし各団体が同等のフローで事務を行った場合の想定と調査結果の乖離）	
	<p>【概要】 本事務は入力系事務であり、各団体が同じ業務プロセスで事務を行えば、業務時間は入力件数に比例するものと見込む。⁽¹⁾</p> <p>左図は射水市の業務プロセスをベースとし、各団体の現状調査結果の業務時間をプロットしたものであり、二点鎖線は（１）の想定を示す。 左図から読み取れる想定との乖離は以下の通りである。</p>
①ほぼ想定線上	黒部市、朝日町 魚津市
②想定線上よりも 業務時間小	該当なし
③想定線上よりも 業務時間大	該当なし

Phase3：業務フロー比較（Phase2乖離原因追及）	
Phase2における業務時間の乖離の有無に関わらず、各団体の業務プロセスを比較し、特異点・相違点の洗い出しを行った結果が以下の通りである。	
団体名	特異点・相違点 (独自の作業プロセスや実施されていない作業及び、左記に伴い業務時間が●過大・●過少となる原因)
射水市	
魚津市	●保護者宛書類の封入封緘に係る作業時間が射水市と比べ極小。 ●人口に対し、申請件数が少ない
黒部市	●他団体と比べ、システム入力に係る時間が大きい。（平均値＋２～３分） ●保護者宛書類の封入封緘に係る作業時間が射水市と比べ極小。
朝日町	●園もしくは保護者より受領した申請書を、EXCELに纏めることをしていない。 ●保護者宛書類の封入封緘に係る作業時間が射水市と比べ極小。

Phase4：RPA適用に当たり検討すべき事項（懸案事項）	
◎支給認定変更申請書は紙媒体かつ保護者の手書きである。 射水市、黒部市においては、システム投入前に取りまとめや、後の決裁時資料のために、一度EXCEL様式に転記しており、これをインプットデータとすることでRPAでのシステム入力の実現できるが、現状、紙から直接システム入力を行っている朝日町のような場合、新たにEXCEL様式への転記事務を増やすことは、効果の縮小に繋がりがかねない。	
◎本事務は、申請書を受領次第、都度システム入力を行う運用となっており、このような個々の事務にRPAを用いることは適切ではない。 運用を見直し、取りまとめ後、一括してシステムへの入力が可能であれば、RPA活用の余地は生まれる。	
総合的判断	
業務時間	A / B / C / D / E
RPA適合性	A / B / C / D / E
全国展開度	A / B / C / D / E
最終選定優先度	A / B / C / D / E